

グループワーク 事前講義

会計インターン

日本経営ウィル税理士法人

1. ケースワークを始める前に ～ 財務三表のつながり ～

1. 損益計算書…「**儲け = 成績**（利益の発生過程）」がわかる
2. 貸借対照表…「**体力 = 財産**（資産や負債等）」がわかる
3. キャッシュフロー計算書…「**お金の流れ**（現預金の増減要因）」がわかる

•損益計算書

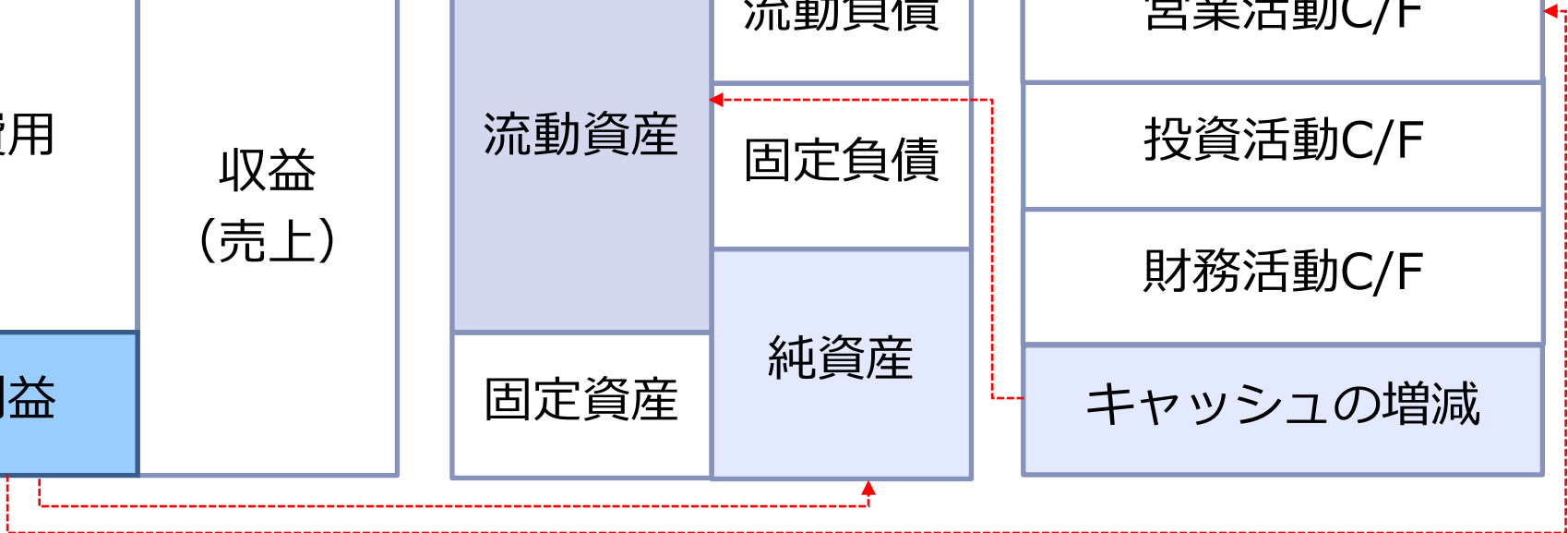
費用	収益 (売上)
利益	

•貸借対照表

流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	純資産

•キャッシュフロー計算書

営業活動C/F
投資活動C/F
財務活動C/F
キャッシュの増減



2. 損益計算書 (P/L) ①構造

損益計算書 (P/L)

1年間の**経営成績(儲け)**がわかる

【P/Lの構造】

営業活動を行うために
投下した **対価**

費用

営業活動により
あげた **成果**

収益
(売上)

収益から費用を差
し引いたもの
= **儲け**

利益

2. 損益計算書 (P/L) ②各段階の損益

利益や損失を発生原因ごとに並べたものが「損益計算書」

【制度会計上の3つの利益】

- ◆ **営業利益**: 本業における経営成績(儲け)
現場運営責任者にとっての責任利益
- ◆ **経常利益**: 通常の活動での経営成績(儲け)
経営者にとっての責任利益
- ◆ **税引後当期純利益**: 当期1年間での最終的な経営成績(儲け)
外部の利害関係者にとって重要な利益
- ※ **売上総利益**: 売上から売上原価(仕入)を引いたもの(粗利)

2. 損益計算書（P/L） ③売上を分解する

- 1日の売上を計算してみよう（1人1杯ラーメンを食べると仮定）

$$\text{単価} \times \text{販売数量} = \text{席数} \times \text{回転率（= 客数）}$$

回転率 … 満席になる状態が1日に何回できるか
（例）10席ある店に100人来店 → 10回転

- 1カ月の売上は？
- 1年間の売上は？



2. 損益計算書（P/L） ④費用の分類

原価 … 商品の製造に直接かかる費用

- 材料費
- 労務費
- 経費

➡ 飲食業の場合の原価は主に**食材費**

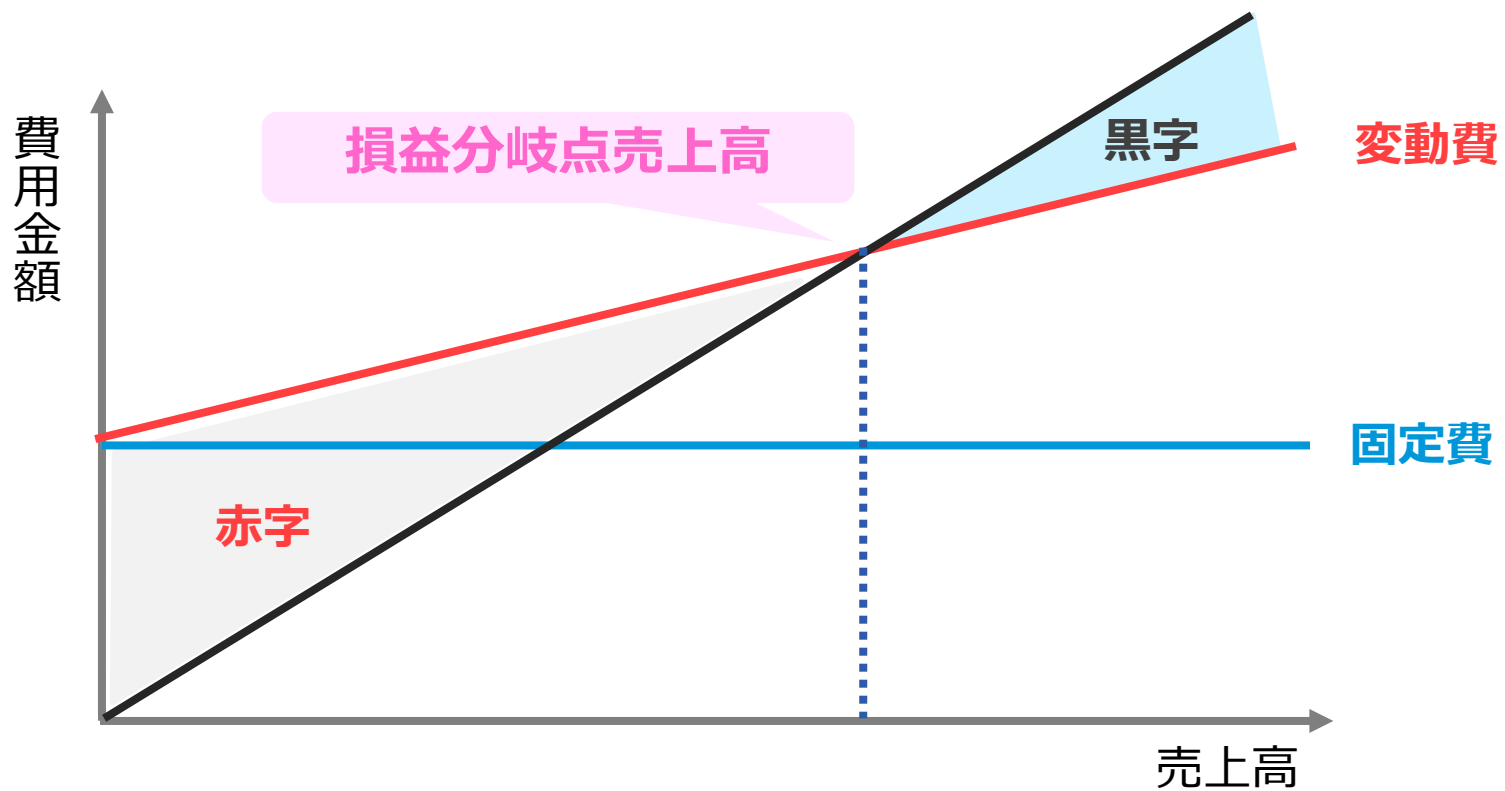
販売費及び一般管理費 … 商品の販売、会社の管理活動にかかる費用

- 人件費
- 地代
- 広告宣伝費
- 水道光熱費 等

3. 損益分岐点

損益分岐点とは？

利益が0円になる時の売上高



3. 損益分岐点

損益分岐点売上高

$$= \text{固定費} \div 1 - \text{変動費率}$$

$$\text{変動費率} = \text{変動費} \div \text{売上}$$

- 利益が発生する売上高を知る
- 現状の売上高が損益分岐点売上高より
どれほど乖離があるのかを確認し、課題を考える

4. キャッシュフロー計算書 ①利益＝お金？

お金の増減とその理由を示す「キャッシュフロー計算書」

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{利益} = \text{収益} - \text{費用 (P/L)} \\ \text{現金} = \text{収入} - \text{支出 (C/F)} \end{array} \right.$$

お金の支出が**伴わない**ものは？

▶ 減価償却費

お金の**出入りがある**ものは？

▶ 借入金返済・新たな借入・機械（設備）の購入



利益 = 現預金残高ではない



4. キャッシュフロー計算書 ②利益と現金残高

	A社	B社
売上	100	100
仕入	60	40
減価償却費	20	60
利益	20	0
※借入金返済	50	50
※現金取引		



お金の流れ



	A社	B社
売上による収入	100	100
仕入による支出	60	40
借入金返済による支出	50	50
現金残高	-10	10

5. 事業計画書

事業計画書とは、

今後どのように事業を運営していくのか具体的な数値や行動を示す計画書

目的

公的・民間の金融機関や投資家などに提示して、
資金調達や事業承継を実施すること

利点

企業の存在意義を明確にし、企業の進むべき方向性を表す
具体的な数値での持続的な収益性を示し、信頼を得る

- 作成時の注意点 -

- ① 内容は**細かく具体的に**記載すること
- ② 数値はしっかりと**根拠や裏付けをもって**示すこと